

台湾ドル相場

予想レンジ: **USD/TWD 30.60 ~ 31.80**
TWD/JPY 4.90 ~ 5.15

東アジア資金部台北室 童 明婉

■ 先月の為替相場

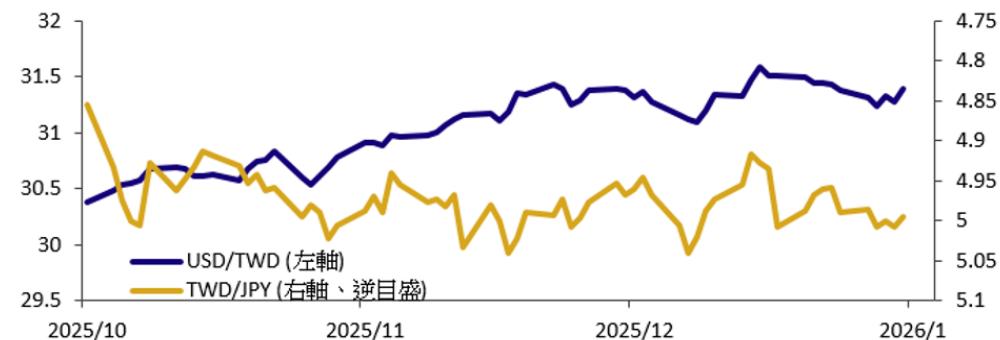
12月のUSD/TWDは上昇後、下旬にかけてほぼ全戻し。

月初、USD/TWDは31.400付近でオープン。11月から続く海外資金流出やアジア通貨安を背景に、12月1日には一時31.460まで上昇。しかし、トランプ前大統領のFRB議長人事発表や、FOMCでの利下げ観測の高まり、台北株式市場の史上高値更新を受け、12月8日にはUSD/TWDが31.098(当月安値)まで急落。その後、FOMCが0.25%の利下げを決定し、声明で「今後は慎重に判断する」との姿勢が示されたことで、連続利下げは一服との見方が広がり、USD/TWDは31.20前後で推移した。

中旬の12月12日、米国でOracleの決算発表を受けて市場にITバブルへの懸念が広がり、世界株式市場が不安定な動きとなった。12月15日・16日には台湾株も連日下落し、海外投資家の資金流出が加速。USD/TWDは31.500を突破し、12月18日に31.595(当月高値)を付けた。同日、台湾中銀は政策金利を据え置き、2025年のGDP成長率を7.31%へ上方修正したが、市場の反応は限定的で、USD/TWDは31.50台の強含みで推移した。

下旬に入ると、主要国の金融政策会合が一巡し、クリスマスや年末年始を控えて為替市場の取引は閑散となつたが、台湾株が最高値を更新する流れの中、USD/TWDは31.36付近まで下落し、最終的に、前月末比(11月末31.408)ほぼ同水準の31.438でクローズした。

■ 為替の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
12/1	製造業PMI指数	11月	-	48.8	47.7
12/5	CPI(前年比)	11月	1.50%	1.23%	1.48%
12/9	輸出(前年比)	11月	41.1%	56.0%	49.7%
12/18	台湾中銀金融政策決定会合		2.0%	2.0%	2.0%
12/22	失業率	11月		3.35%	3.33%
12/23	輸出受注(前年比)	11月	30.10%	39.50%	25.10%
12/24	鉱工業生産(前年比)	11月		16.42%	14.50%

■ 今月の見通し

1月のUSD/TWDは高値圏から離れ、31台前半を中心としたレンジ相場を想定。

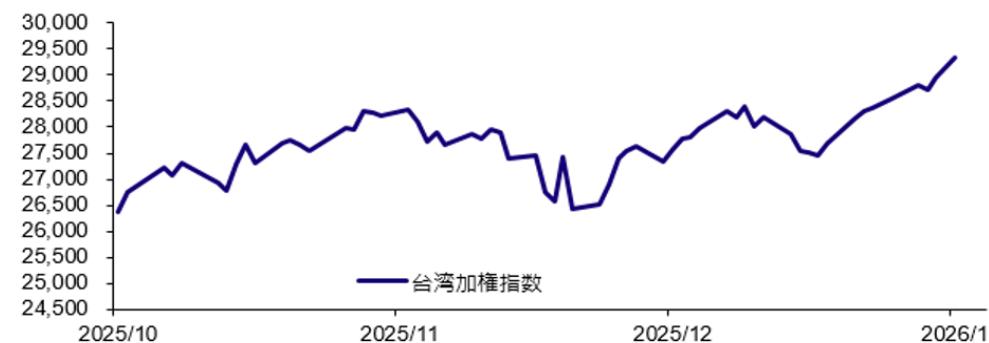
11月から12月にかけての大規模な海外資金流出が台湾ドル安の主因となりましたが、12月下旬以降は外資の動きが鈍化し、USD/TWDの上昇も頭打ちとなっています。ただし、米国のインフレ指標がタカ派的な内容となった場合や、テックバブル懸念が再燃して世界的にリスクオフが強まった場合には、USD/TWDが再び高値を試す展開も想定内。

一方で、台湾ドルの一方的な下落は限定的。旧正月を控えた輸出企業の外貨売り需要の増加や、台湾中銀が12月会合後にファンダメンタルズの堅調さと市場調整への意欲を示したことが、過度な台湾ドル安を防ぐ要因となります。1月中旬以降に外資が再び流入すれば、台湾ドルが反発する余地も。

中長期的には、台湾の輸出が引き続き好調であり、中央銀行も2025年・2026年のGDP成長率見通しを上方修正しました。産業ごとの成長の偏りは課題ですが、堅調な輸出が台湾ドルの下支えとなっています。加えて、12月のFOMCで利下げ路線が維持され、2026年上期にFRBが緩和に転じる場合には資金流入も期待され、中期的な台湾ドルの上昇余地も残る。

総じて、当面はリスク要因をにらみつつも、良好な台湾経済のファンダメンタルズと米国の利下げ観測を背景に、USD/TWDは31台前半を中心としたレンジ相場と見込み。

■ 株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
	製造業PMI指数	12月	-
	CPI(前年比)	12月	-
	輸出(前年比)	12月	-
	輸出受注(前年比)	12月	-
	失業率	12月	-
	鉱工業生産(前年比)	12月	-
	GDP	Q4	